

タイル名称統一 100 周年記念 巡回企画展

# 日本のタイル 100 年 —美と用のあゆみ

JAPANESE “TILE”: A Century of Beauty and Utility

本展は、INAX ライブミュージアム、江戸東京たてもの園と多治見市モザイクタイルミュージアムの 3 館共同企画として巡回する展覧会であり、日本で「タイル」と呼ばれるようになったやきものの、現在に至る 100 年間のあゆみを辿り、未来へ向けた第一歩にしようとする巡回企画展です。

建物の表面を覆う薄板状のやきものを統一的に「タイル」と呼ぶ——1922 年 4 月 12 日、全国のタイル業界関係者が東京に集まり、決議した記録が残されています。それまで「やきものの建築装飾」が 25 種類を超えるという様々な名称で呼ばれていた背景には、建築物をやきもので覆うという行為が、世界各地の文化を反映しながら波及し、地域性を備えた様々な形態で日本に伝わってきた実態があります。そして日本側でも、こうしたやきものを独自の解釈を加えながら取り入れ、日本の「タイル」の姿を作り出してきたと言えるでしょう。「名称の統一」は、単に呼び名を絞ったという話ではなく、日本の「タイル」の輪郭が定まり、規格化され、産業製品として流通するようになったという変革の時を表しているのです。

変革の背景には、確かに公衆衛生に対する意識の変化がありました。しかしタイルの変遷には、実用面や機能面だけでは語れない、日本人のやきものに対する思い入れや、その時々文化、芸術の写し鏡のような側面も見て取れます。本展を通して、美と用の間でタイルが果たしてきた役割を振り返り、タイルを通して見えてくる暮らしや建築の未来を考える機会となれば幸いです。

企画：INAX ライブミュージアム、多治見市モザイクタイルミュージアム、江戸東京たてもの園  
多治見会場主催：多治見市モザイクタイルミュージアム 同共催：多治見市美濃焼ミュージアム  
会期：2022 年 9 月 17 日（土）～2023 年 1 月 29 日（日）

会期中限定、2 会場共通券（500 円）を発行します。

高校生以下無料、障がい者手帳をお持ちの方及び付き添い 1 名様無料



<見どころ> **多治見市内の2つの博物館が初めて手を結んだ共同開催展**

**第1会場 多治見市モザイクタイルミュージアム 3F**

INAX ライブミュージアム蔵「世界のタイル」コレクション、極めて希少な上絵付の腰瓦<柿右衛門色絵陶板>など、「タイル」の原点を表す重要資料が並びます。



《柿右衛門色絵応龍文陶板》17世紀 前坂晴天堂蔵

休館日 月曜日(休日の場合は翌平日)

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分)

観覧料 一般310円 他

**第2会場 多治見市美濃焼ミュージアム ギャラリーM1**

100年にわたる日本のタイルの歴史を、トピックスごとにご紹介。泰山製陶所の美術タイルや東郷青児原画のモザイク画等に加え、現代の陶芸家による創作的な「タイル」作品も出品。



東郷青児《アートモザイクタイル画「裸婦像」》

発売:伊奈製陶、昭和26年(1951)、INAX ライブミュージアム蔵

©Sompo Museum of Art, 22010

休館日 月曜日(休日の場合は翌平日)

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分)

観覧料 一般320円 他

<関連企画盛りだくさん!> ⇒詳細はホームページへ

- ナイトミュージアム×コンサート 9月17日(土) 18:30～ 会場:モザイクタイルミュージアム
- みる×つくる 折り紙建築と特別ツアー 9月18日(日) 13:00～ 会場:名古屋市市政資料館
- 2会場を巡るギャラリートーク・ツアー 9月19日、25日、10月と11月にも設定。
- シンポジウム 「タイルと建築」(仮) 出演:笠原一人、倉方俊輔、高岡伸一、後藤泰男  
日時:11月23日 14:00～ 会場:笠原中央公民館 3階
- INAX ライブミュージアム協力企画 「光るどろだんご」  
日時:10月29日 会場:多治見市美濃焼ミュージアム
- 美濃焼ミュージアム企画 ワークショップ「器をつくる(タイルでアクセント)」  
日時:9月24日(親子対象) 11月19日(中高生対象) 会場:笠原中央公民館 陶芸工房

お問合せ先 多治見市モザイクタイルミュージアム

〒507-0901 多治見市笠原町 2082-5 電話 0572-43-5101 FAX 0572-43-5114

URL: <http://mosaictile-museum.jp>